

ダブステップ

ダブステップとは？

「2ステップ」に「ダブ」の要素を融合して生まれた比較的新しいジャンル。
「ダブ」とは録音された素材に様々なエフェクトや加工を施して
新しい作品を生み出すリミックス手法、
またはそのような手法を用いたジャンルのことを指します。
つまりダブステップとは、「2ステップ」をベースに、
エフェクティブなサウンドを使った新たな表現を追求した結果
生まれたジャンルと考えることができますね。

さらに、2010年代に入ってから、エレクトロハウス由来の
攻撃的なサウンドを使った「ブロステップ」というジャンルが注目を浴びましたが、
ダブステップが持つエフェクティブな要素を発展させた
新しい表現の形といえるでしょう。

ダブステップの特徴

「ダブステップ」は「2ステップ」をベースに誕生したジャンル。そのリズムは、本来の意味での「2ステップ」に近くなり、4つ打ちから2拍目と4拍目のキックを抜いた2ビートが基本となりますが、実際には、それをハーフタイムで引き伸ばす形で、1拍目のキックと3拍目のスネアで構成された非常に潔いリズムとなっています。一方で、ハイハットは小刻みに刻まれる複雑なビートを持つことも特徴です。

また、「ダブ」由来のテクニックとしてディレイなどのエフェクターを用いてリズムを複雑化する手法などもみられるため、そのリズムは実に多岐に渡ります。

- ハーフタイムの2ビート
- 小刻みに刻まれるハイハット
- エフェクターでリズムを複雑化することも

ハーフタイムの2ビート

2ビートとは、1拍目 & 3拍目に強いアクセントを持つ基本ビートでした。

4つ打ちが毎拍キックを演奏するのに対して、
2ビートは1 & 3拍目のみでキックを演奏するのが基本です。

ダブステップでは、
それをさらにハーフタイム(通称: 半テン)で引き伸ばすことによって、
スキマの多いシンプルなビートを持つことが特徴です。

小刻みに刻まれるハイハット

キック&スネアが非常にシンプルなリズムを刻んでいるのに対して、ハイハットは小刻みかつ複雑に刻まれることが多いです。

エレクトリック系ドラムサンプラーの特性を生かし、1発1発のハイハットサウンドにバリエーションを持たせることで、トリッキーなビート作りが可能です。

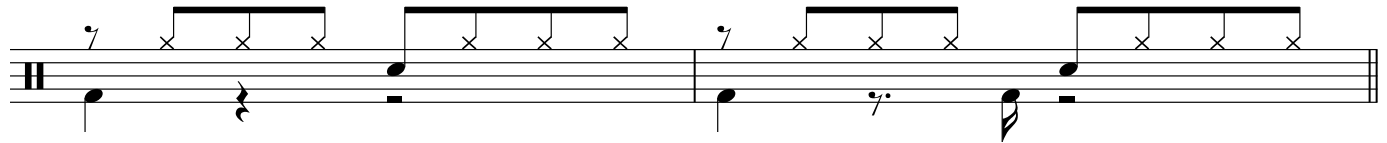
エフェクターでリズムを複雑化することも

とくに初期のダブステップで多くみられる手法で、「ダブ」の要素をふんだんに取り入れ、ディレイなどのエフェクトを使ってリズムを複雑化させることも可能です。

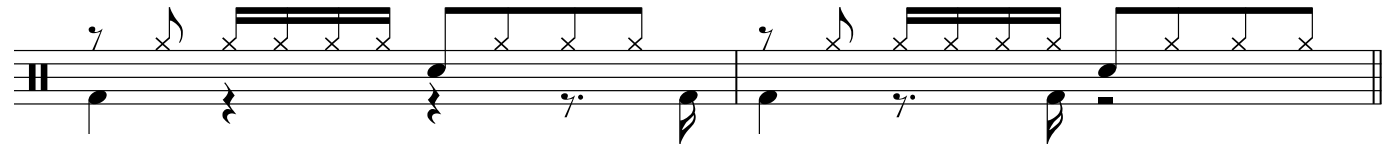
キックやスネアにたっぷりスキマがとられていることで、ディレイなどエフェクトを用いた加工が効果的に行えます。ブロステップなどの新しいジャンルではあまりみられなくなりましたが、本来のダブステップらしさを追求する上では欠かせないテクニックと言えるでしょう。

ダブステップのビート

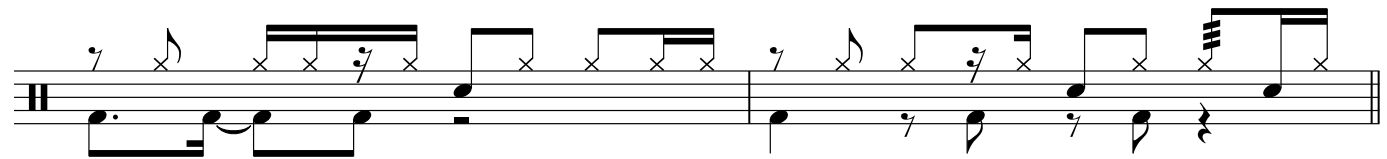
パターン①



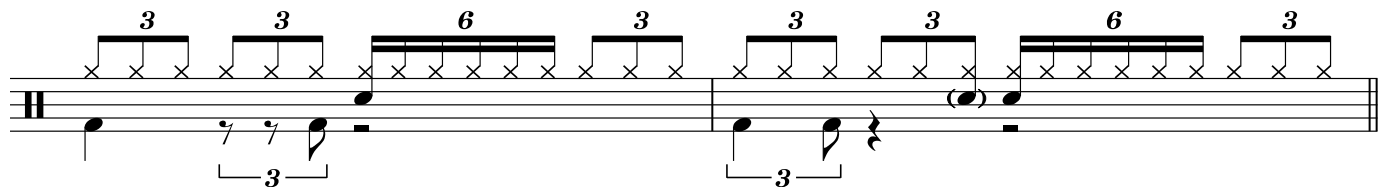
パターン②



パターン③



パターン④



ダブステップの音色選び

ダブステップは、エフェクトを多用した音作りから昨今の攻撃的なサウンドまで、実に多用な音色を用いられます。

「これぞダブステップ！」と言えるようなサウンドは存在しないことが正直なところです。

そこで今回は「ブロステップ」よりのパワフルな音色をご紹介します。

- ファットかつアタックの鋭いキック&スネア
- 豊富なバリエーションのハイハット

ダブステップの打込みのコツ

■ ダブステップのベロシティ

ダブステップのベロシティは、潔く一定にしてしまうのも全然OKかと思います。ベロシティによる強弱ではなく、音色の変化によってグルーブを作った方がよりダブステップの趣旨に近いからです。

もちろん、必要があれば強弱を調整すること自体NGではありません。

とくにハイハットの音色にバリエーションを持たせることで、シンプルなビートでもトリッキーに聞かせることができるのでオススメです。

■ ダブステップのクオンタイズ

クオンタイズについても、潔く全ノートグリッドジャストという選択肢も全然アリです。

とくに「ブロステップ」では機械的なサウンドこそが醍醐味だったりもします。

逆に、初期のダブステップなどにみられるウェットなサウンドを求めるならば、

軽めのスウィングを入れることも決してNGではありません。

楽曲に合わせて、自由に調節しましょう！